

2-2 魅力を生かすまちづくりに向けて

文京区においては、多くの大学が立地していることにより、教育環境が良く文化性が高い「文教のまち」というイメージが定着し、大学と連携した産業集積の形成にもつながっています。また、まち並みの風情や緑の豊かさなどが、住宅地としての評価を高め、人口も回復してきています。さらに江戸・明治からの歴史・文化的資源に恵まれていることなどから、区外からの来訪者をひきつけ、区民が地域への愛着や誇りを再認識する機会となっています。

このような文京区のまちのもつ魅力は、区独自のまちの機能を支え、個性を発揮させ、総じて区の価値を高めるという重要な役割を担っています。

しかしながら、時代によってまちは変化し、これらの魅力も次第に喪失してしまう可能性があるため、区の個性となっている魅力を生かしたまちづくりを進めること、そして多くの人にその良さを知ってもらうこと、さらに新たな魅力を創出して一層魅力的な文京区としていくことなどを通して、それらの価値を見つめ直していくことが必要です。

このため、以下に示す視点をもってまちづくりを進めます。

魅力を生かすまちづくりに向けた視点

- まちづくりにおいては、安全性や利便性を高めることが重要な課題ですが、それだけでは十分ではなく、個性ある魅力を発揮することを合わせて実現していく必要があります。このため、土地利用計画、道路網の整備、公園・緑地の整備、あるいは景観形成などの各部門において、魅力を生かすことに一層配慮したまちづくりを進めます。
- 文京区の魅力となる資源は住宅地に多く点在していることから、来訪者の受け入れにあたっては居住者への配慮が必要です。このため、地域住民をはじめ関係者が話し合いながら、住む人にも訪れる人にも快適な環境となるよう、その形成に取り組む仕組みづくりや、来訪者のマナー向上を促す取り組みを含めたまちづくりを進めます。

